

## 第四講 記憶と歴史、或いは記憶から歴史学へ

### 第3回レポート講評

記憶：当事者中心・個人的経験に基づく・主観的・願望や妄想、バイアスが入り込む・時空間が短く狭い・成功など心地よい記憶・断片的でエピソード的・長いストーリー性に欠ける・持ち主の死とともに失われる

文化史（歴史）：集团的・客観的・普遍的・一般化される・時空間が長く広い・社会や制度も対象・当事者以外記憶も含まれる・不確実性の排除・悪い記憶・事実の追求・抽象的・集合化・永続的に伝えられていく

面白い指摘：記憶の方が確か・解釈の数だけ歴史がある・歴史は主観的・歴史は推測

### テミストクレス決議碑文

1959年発見。60年にジェームソン教授により報告。

アテナイでなくトロイゼンで発見

文字様式・・・前3世紀前半のもの

区民を記す

### レポート課題

お父さんたちの●●世代の記憶はどのようなものがあるのか？

また諸君の●●世代の記憶にはどのようなものがあるのか？

### 記憶の問題

・記録される記憶の場の問題

どこに記憶されるのか？

何に記憶されるのか？

円山公園の「新聞少年の像」・「ラジオ塔」・「坂本竜馬と中岡慎太郎像」

記憶が象徴するもの

昭和という時代を象徴：経済恐慌・戦時体制・戦後復興と  
民主化・所得倍増・三種の神器

(テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫)

→時代と社会への帰属意識の共有

世代の個性化：AKB48 は分からないが、ザードは分かる  
世代ごとの記憶の象徴：なぜ朝ドラで戦争の記憶が語られ  
るのか？

定型化された記憶：軍部の横暴・独裁・精神主義、戦争中  
の物不足、戦後の民主主義と闇市、進駐軍  
貧困と苦学・立身出世・近代化・国民動員・革新  
性への願望

#### 記憶の統合機能

共有される記憶は同じ価値観を共有する集団を形成し、  
人々を統合する

キーワードの存在 (例：AKB48)

ヘビーローテーション：2010年8月18日シングルで  
発売

大島優子 (栃木県下都賀郡壬生町出身・2006年4月1  
日デビュー・2014年6月2日卒業公演予定)・長嶋茂  
雄・クラス担任の先生や修学旅行

2005年12月8日・高橋みなみ (オリジナルメンバー  
24人中3名)・デビューは秋葉原48劇場・観客は72  
人 (一般は6人)

→ファンクラブの形成

(ファンクラブ・野球場・同窓会など)

教育やマスコミを通じて集合化された記憶が共有されて  
いく

→記憶を共有する集団の形成

民族という集団に共有される「集合的記憶」

P・ノラ (1931年～)

ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場』（岩波書店：2002-03年）

移民の流入によるフランス人の文化的アイデンティティ喪失の危機

フランス国民の「集合的記憶」

ウエルキングトリクス・フリジア帽など

多民族・多文化社会（移民社会）への批判

グローバル化への批判

### 記憶と歴史の関係

国民史としての語り

民族の形成・民族の過去の経験と記憶の共有

「我々」意識の生成と「他者」の創造・差別化

旧ユーゴの悲劇

同じ民族・宗教の違い（セルヴィア正教・イスラム教・カトリック）→各共和国の独立・民族浄化

空間的に分けられず・重なり合う空間の共有→棲み分け→陣取り合戦

「他者」を劣格なもの、凶暴で野蛮な存在として描く（プロパガンダ性）

「我々」を優等なもの、被害を被るものとして主張の正当化を訴求する

国民的アイデンティティへの統合を目指す

ブルカ禁止←フランスの国是：教育からの宗教の排除